
「大統領、お電話です」

Mr.あいう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「大統領、お電話です」

【Nコード】

N7512H

【作者名】

Mr. あいう

【あらすじ】

幼いころからの夢だった大統領になった男は、エイリアンに出会い、とても残念な真実を告げられる。

「第51代大統領、マイケル・デビス、か」

誰もいない部屋で、一人つぶやいてみると、笑いがこみ上げてきた。

「思えば、いろいろと苦労したものだ」

幼いころ親に連れて行ってもらった演説会の

演説台の上の大統領に憧れてもう50年になる。

小学生のころ、ジョージ・ワシントンの真似をしたくて桜の木を切つたら、

飛んできた親に生涯で一番強くひっぱたかれた。

中学生のころ、「将来の夢は大統領だ」と豪語したら、

その日以来クラスみんなが僕と距離を置くようになった気がする。

高校生のころ、進路をたずねられ、「大統領」と言ったら

先生に真顔で諭された。

「いいかマイケル。確かに夢を持つのはいいことだ。

未来を夢想するのも若人の特権だ。だがな、17歳にもなって

夢を見続けるのか？現実を見るマイケル」

「いえ、夢でも結構です。僕は70歳になっても大統領を目指します」

それきり先生は何も言わなかった。横顔が薄く笑っていた気がする。

ふと、誰かがいる気配がした。首だけ動かして振り向き、
・・・その状態で硬直した。

宇宙人だ。

「やあ、どうも」

まるで最初からいたかのように、何の前振りもなしに、さも当然かのように、一目見ただけでそれを宇宙人だと認識してしまう。納得してしまう存在が、ホワイトハウスの一室にいた。

それは50cmくらいの大きさで、銀色に光る体に黄色い目。立っているのが不思議なくらい細い手足を持った、

いわゆる、一般的なエイリアンだ。

多分、首の痛さで正気に戻るまで、その体勢だったのだろう。

何を血迷ったか、私の第一声。

「どこから入ってきたんだ！」

エイリアン相手に愚問だった。

「エイリアン相手にそれは愚問でしょう。話しても理解は不可能だ
と思いますし。」

とりあえず、座りましょう。」

それから私がきちんと対話ができるようになるまで約30分、
エイリアンの存在が私の幻覚でないのを確認するのにさらに約30
分、

エイリアンが私のところにきた理由の説明に約1時間、計約2時間
を費やした。

「つまり簡単に言うと世界はもうエイリアンに侵略されていると」

「そうです」

「そしてそれがばれると世界中大混乱になるのでその事実のごく一
部お偉いさんにしか知らされてないと」

「その通り」

「そして、私含むお偉いさん方はあんなららの指示に従わなければな
らないと」

「理解が早くて助かります」

「断る」

「そういうと思ってました」

そういうとエイリアンは口の中から小さなカプセルを取り出した。

「このカプセルを噛み砕くだけで、地球上の人間のみが死滅します。
次世代の知的生命体が誕生するまで、1億年もかからないですよ」

う。

私たちは気が長いので、その生物とコンタクトをとることにしましょう。」

全人類を人質に取られたら、答えは決まっていた。

「言いなりになろう」

「冷静な判断、ありがとうございます」

それだけ言うとエイリアンは、連絡方法は後日お伝えします、と言って文字通り、消えた。

………とりあえず腰が抜け、私は朝になるまで備え付けの時計を凝視していた。

連絡方法は電話だった。

毎朝、8時にかかってくる妻からのラブコール、という設定。

私は昨日まで独身だったが、20年連れ添った妻がいるのは、周知の事実らしい。

だがまあ、あのエイリアンは女の趣味はよかった。

まさに理想の女性、その点だけは感謝している。

「大統領、お電話です」

今日も1秒のぶれもなくきっかり8時に電話がかかってくる。そしてあのエイリアンの声で簡潔に指示が入る。今日は中東の国の元首と会合らしい。

大統領になってつくづく思う、
かなえても味気ない夢もあるし、
見なかった方がいい現実もある。
夢をかなえても、かなえられなくても、結局人生に後悔はつきものだ。

「それでは、また明日8時にご連絡いたします」

「ああ、また明日」

(後書き)

どうも、Mr. あいうです。

初投稿なのでうまく書けたかわかりませんが、

楽しんでくれたら、幸いです。

評価していただいたら、感無量です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7512h/>

「大統領、お電話です」

2010年10月28日04時40分発行